

文化史で学ぶ日本史，文化史から考える日本史
—資料を用いたグループ学習と時代背景を考察する記述課題の取り組み—

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇（日本史）

1 はじめに

日本の文化についての知識を身につけ、自分の言葉で他者に説明できるようになることは日本史学習の目的のひとつであると言える。学習指導要領では、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって歴史的思考力を培うことが目標としてあげられている。社会における文化の持つ力への注目は高まっており、生徒自身も「日本の文化を知ることは必要なことだ」と感じている。その一方で、日本史を暗記科目ととらえる多くの生徒は、文化史学習を人物名や作品名の羅列の丸暗記ととらえてしまい苦手意識を持つようである。さらに、実際の授業では授業時間が足りず、政治・経済・外交史の学習が中心となりがちである。その時代の文化に関する学習は重要事項の確認にとどまるか、生徒の自学自習に任せる場合が多いように見受けられる。しかし、文化とは作品だけが突然出現するものではなく、社会背景が必ずあって生まれるものである。「社会的変化は、時代の精神や感受性の変化を条件づけ、後者の変化は、眼に見える形として美術の様式の変化にあらわれる(加藤周一「ヨーロッパとは何か」追記より〔鷲巢力編『加藤周一自選集 2 1955-1959』岩波書店、2009〕)」。文化を知ることはその時代のエッセンスを知ることにつながる。

以上のことをふまえ、授業における効果的な文化史学習の実践方法について研究し、文化史学習を通してその文化が栄えた時代についての考察を深める授業を展開する。その上で、文化史学習を通して、日本史の学習全体に対する興味・関心を高めることを目指していきたい。

2 主題設定の理由 —「覚える」から「理解する」へ—

本校では日本史選択者の大半が日本史を大学入試の受験科目として選んでおり、学習意欲は高いが、生徒からは「内容よりも覚え方を教えてほしい」「語呂合わせを教えてほしい」といった声が聞こえ、理解しようというよりは覚えようとしていることがわかる。生徒にとって、覚えることが勉強することとなっている現状では、日本史の学習は人物名や事件名の丸暗記であり、文化史学習は難しい漢字の大量暗記でしかない。知らない作品の名前を暗記しなければならない苦痛から苦手意識を持ってしまっているのであれば、知る機会を作り、見たことがある状態にし、さらに説明できる状態にすれば、文化史学習に対する否定的な感情が減少するのではないかと考える。文化史学習を通して、実際に資料に触れるおもしろさや大切さに気づき、自ら資料を手にする生徒を増やしたい。また、昔の人々が心を動かした作品に触れることで、文化史学習の内容は生身の人間が残した作品や思索の跡であると気づくことができれば、それまでは丸暗記していた既習内容についても振り返って考察を深めることができるのではないかと考える。

文化史学習の知識を暗記することは独学でもできるが、言葉を口に出して相手に伝え、お互いの調べたことを伝え合うペアワークやグループワークは授業でしかできないことである。これらの活動をふまえて記述課題に取り組むことで、学習内容が定着し、既習内容の知識を活用する力を伸ばせるのではないかと考える。例えば、「紫式部、『源氏物語』」と覚えるだけでなく、源氏物語にはどのような場面が描かれているのかを知り、なぜその時代にこのような作品が誕生した

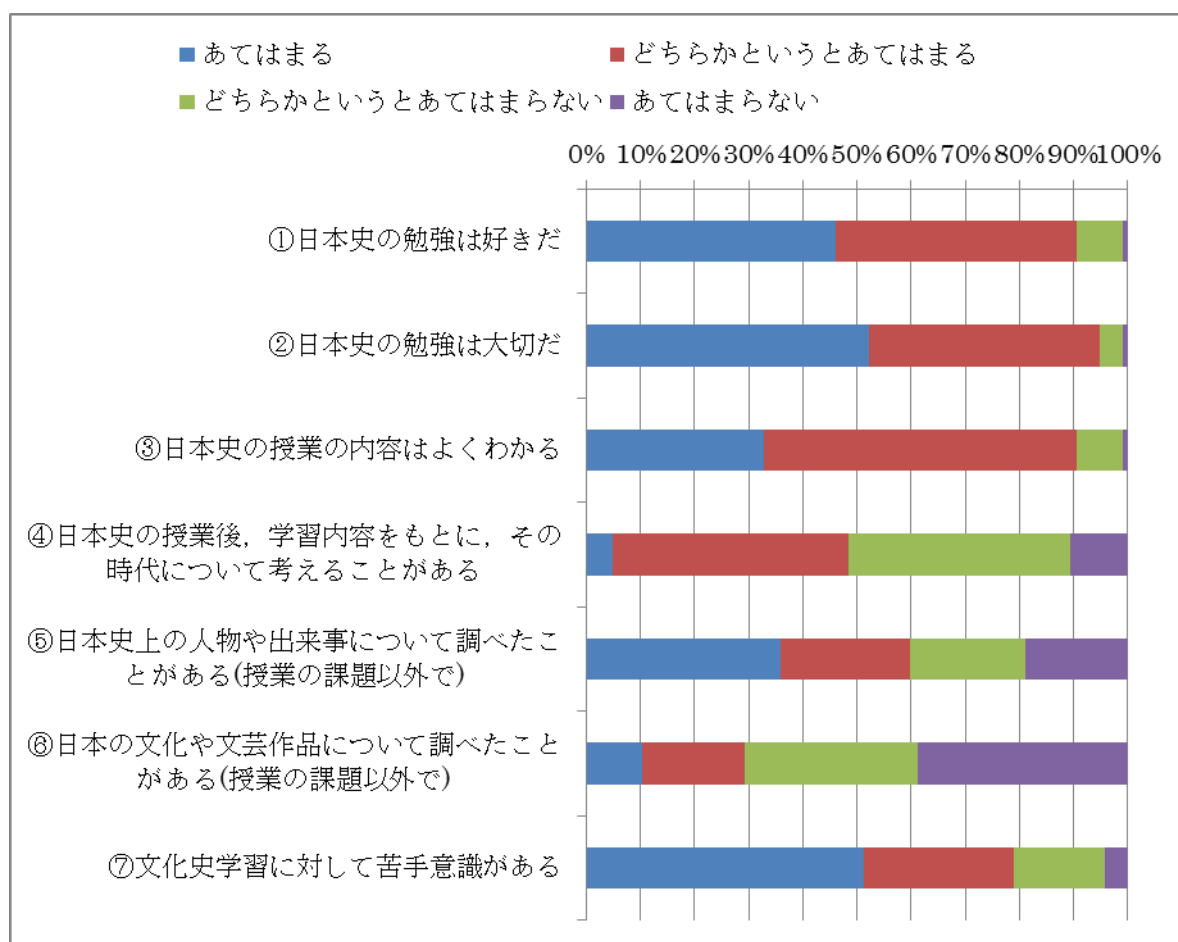
のかを考え、作品とその時代とのつながりを他者に説明できるようにするのである。文化史学習の中で既習内容とのつながりを考え、その時代の政治・経済・外交・社会についての理解がより深まったと生徒自身が実感できれば、文化史学習や日本史学習全体に対する興味・関心もさらに高まるのではないかと。以上の理由から主題を設定した。

3 研究方法

生徒が興味を持って文化史学習に取り組めるよう、グループでの資料鑑賞を行う。次に、文化とその時代とのつながりを考察する記述課題に取り組む。文化史学習の中で既習内容とのつながりを考えることができたかどうか、その時代の政治・経済・外交・社会についての理解や興味が深まったかどうか、意識調査を行い検証する。

4 実践

(1) 実践前の生徒の意識 2014 年 4 月実施 3 年生文系 日本史選択者(4 講座 117 名)



全体として意欲的に日本史の学習に取り組んでいることがわかるが(質問①②), 既習内容をもとにその時代について考察している生徒は半数に満たない(同④)。また、日本史上の人物や出来事について授業以外の機会に調べたことのある生徒は 6 割近くいる(同⑤)のに対し、文化史の学習内容について調べたことのある生徒は 3 割弱であった(同⑥)。これは、同じ日本史の学習内容であっても生徒にとってなじみがあるか否かの差を示している。約 8 割の生徒が文化史学習に対して苦手意識を持っている(同⑦)背景には、なじみのないものの名前を大量に暗記しなければいけないという苦痛があると言える。この状態から脱するため、例えば文学作品であれば一文でもよいの

で原典に触れさせ、何らかの発見や感想をクラスの生徒同士で共有できるようにする。このように、文化史学習の内容になじむ機会を授業の中で作り、苦手意識の払拭を目指した。

（２）実践方法

教科書の章立てに従って政治、社会、経済、外交について学習した後にその時代の文化について学習する。資料鑑賞と重要事項の確認に 1 時間、各自で選んだ作品の特色とその時代とのつながりを考察する記述課題作成に 1 時間とる。文化史をまとめて学習する方法も考えられるが、文化を学ぶことでその時代の特質について考察を深めることができると考えるので、時代ごとに記述課題に取り組むこととする。

ア 資料鑑賞（1 時間）

（ア） 班での資料鑑賞（40 分）

資料を 6 点準備する。1 点ではなく複数点準備する理由は、絵画・文学・彫刻など様々な作品の資料を見ることで、その時代に共通するエッセンス、思想のようなものを感じ取ってほしいからである。また、様々な分野の資料を紹介することで、次の時間の記述課題でどの作品をテーマにするか、各自で考えながら取り組んでほしいからである。文学作品は資料集や教科書では解説のみの場合が多く、原文に触れる機会はあまりないため、6 点中 2 点程度は文学作品とし、絵画・彫刻・建築などからバランスよく 6 点の資料を準備する（国風文化の資料の例：図 1, 2）。

生徒は 1 グループ 6～7 人の班の形になり、ひとつの資料を班で 6～7 分鑑賞し、全員で見たら次の班に渡す（時計回りのルールを徹底）。じっくり鑑賞するには 20 人程度のクラスが理想だが、現実には 40 人での授業なので、時間をかけて見たいものは授業後に図書館で見るよう声をかける。

文学、和歌などは有名な箇所や注目してほしい箇所にコメント入りの付箋を貼る。生徒になじみのあるもの（中学時代に暗唱したもの）と、ないもの（題名以上の知識にあまり触れないもの）の両方を用意する。なじみのないものは特にインパクトのあるものを紹介するようにする。また、英文なども紹介する（図 2）。絵画資料は社会科備品のパネル写真を主に活用する。他にも美術図鑑や拡大カラーコピーで用意する場合もある。「図書館にあるので見て下さい」ではなく、図書館から教室に持ち出して生徒の目に触れさせることが重要だと考える。

（イ） プリントの空欄補充（40 分）※（ア）と同時進行

資料鑑賞を中心に授業を展開するために授業プリントの空欄箇所を精選し、一般常識・教養といえるもののみを空欄にする。資料鑑賞と並行して教科書や資料集を参考に空欄補充をすすめ、班の代表生徒は黒板に語句を書き出す。プリントの空欄補充のみで学習が終わってしまわないよう、ノートの左側にプリントの半分を貼り、右側は各自の工夫で良いノートを作るようにオリエンテーション時に指示する。例：授業内容のメモ、試験問題の出題傾向、地図・系図の書き込みなど

（ウ） 重要事項の解説（10 分）

黒板に書き出された語句の答え合わせを行い、間違えやすい漢字の注意や重要事項の解説を行う。次回の授業で調べたい作品を各自決めておくように伝える。

女源氏物語 現代語訳あれこれ

与謝野晶子訳

さばさばしてて読みやすい

どの天皇様の御代であつたか、女御とか更衣とかいわれる後宮がおおぜいたの中に、最上の貴族出身ではないが深い御愛寵を得ている人があつた。最初から自分こそはという自信と、親兄弟の勢力に恃む所があつて宮中にはいった女御たちからは失敬な女としてねたまれた。その人と同等、もしくはそれより地位の低い更衣たちはまして嫉妬の焰を燃やさないわけもなかった。夜の御殿の宿直所から退る朝、続いてその人ばかりが召される夜、目に見耳に聞いて口惜しいがちとということになると、いよいよ帝はこの人にばかり心をお引かれになるといふ御様子で、人が何と批評をしようともそれに御遠慮などというものがおできにならない。御聖徳を伝える歴史の上にも暗い影の一所残るようなことにもなりかねない状態になつた。

図書館の雑誌、フナギ
前に並べてあります。
皆さんはどの訳が
好きですか？私は
橋本治訳かな。
この後、角田光代訳
があるそうです。

瀬戸内寂聴訳

文章が自然で読みやすい

文章の流れ、リズムが
かっこいいと思います

源氏物語

橋本治訳

今一番新しい
訳では？
説明が細いという印象

林望訳

いつの御代のことでしたか、女御や更衣が賑々しくお仕えしておりました帝の後宮に、それほど高貴な家柄の御出身ではないのに、帝に誰よりも愛されて、はなばなしく優遇されていらつしやる更衣がありました。
はじめから、自分こそは君寵第一にどうぬばれておられた女御たちは心外で腹立たしく、この更衣をたいそう軽蔑したり嫉妬したりしています。まして更衣と同じほどの身分か、それより低い地位の更衣たちは、気持ちのおさまりようがありません。
更衣は宮仕えの明け暮れにも、そうした妬みたちの心を掻き乱し、烈しい嫉妬の恨みを受けることが積み積もつたせいなのか、次第に病がちになり衰弱してゆくばかりで、何とはなく心細そうに、お里に下がって暮す日が多くなつてきました。
帝はそんな更衣をいよいよじろしく思われ、いとしさは一途につのるばかりで、人々のそしりなど一切お心にもかけられません。
全く、世間に困つた例として語り伝えられそうな、目を見るばかりのお扱いをなさいます。

さて、もう昔のこと、あれはどの帝の御世であつたか……。宮中には、女御とか更衣とかいう位の妃が多かつたなかに、じつはそれほど高位の家柄の出というでもなかつた桐壺の更衣という人が、他を圧して帝のご寵愛を独占している、そういうことがあつた。

女御ならば皇族または大臣家の姫、更衣ならば大納言以下の貴族の娘と決まつたものゆえ、その並々ならぬ家柄の女御のかたがたからみれば、我をさしおいて桐壺の更衣ごときがご寵愛をほしうまにするなど、本来まことにけしからぬ話、とんでもない成り上がり者と、あしざまに罵らずにはおられない。
まして、同じくらしいの家柄、もしくはそれ以下の出自の更衣たちともなれば、心はいよいよ穏やかでない。

が、帝はそんなことには頓着されないから、朝に夕に、この桐壺の更衣をお呼びになる。そこで、お仕えするために参上すると、もうその度に、あたりの女たちの嫉妬心は燃え上がり、満々たる恨みが、その人の一身に積み積もつたのであろうかとうとう病がちになり、だんだんと心細い状態になつて、とかくは実家のほうに下がつて過ごしているということが多くなつた。

すると、達えない分、帝のご執心はますます募つて、どうしても逢いたい、いっそうご寵愛が急になつていくので、周りの人々がどれほどこの更衣を誹謗しているかということまでは斟酌されるゆとりもなかつた。まさに、一国の主が女色に迷つて国の乱れを惹起したという歴史上の例話にもなるようなご感乱ぶりであつた。

いつのことだったか、もう忘れてしまつた。

帝の後宮に女御更衣数多舞めくその中に、そう上等という身分ではないが、抜きん出た寵を得て輝く女があつた。
女の身分は更衣である。

帝の寵を受ける女達の中で、更衣とは「いとやんごとない」と称されるような身分ではなかつた。帝の正室である中宮、その中宮を選び出す女御の階級に続く、妃の第二の身分であつた。

だがしかし、帝の寢所に侍り宿直する身の女に「下等」と称されるようなもののあるや旨もない。上にあらず下にあらざる更衣の身にふさわしい寵にとどまっていれば、いかなる事件も起こりようはなかつた。

にもかかわらず、その女はただ一人、後宮という閉された世界にあって、抜きん出て輝いていた。

谷崎潤一郎訳 出ました！谷崎！原作のイメージに最も近いのは？

何という帝の御代のことでしたか、女御や更衣が大勢伺候していましたが、たいてい遠い身分ではなくて、誰よりも時めいている方がありました。最初から自分こそは思っているとおん方は、心外なことだと思つて腹んだり嫉んだりします。その人と同じくらの身分、またはそれより低い地位の更衣たちは、まして気が気ではありません。そんなことから、朝夕の宮仕えにつけても、朋輩方の感情を一通に害したり、恨みを買つたりしたのが續り續つたせいでしようか、ひどく病身になつて行つて、何となく心細そうに、とすると里へ還つて暮すようになりましたが、帝はいよいよたまらなくなつていよいよに思召して、人の非難をもお構いにならず、世の語り草にもなりそうな扱いをなさいます。

田地文子訳 私の母のオススは田地訳です

いつの御代のことであつたか、女御更衣たちが数多く御所にあがつていられた中に、さして高貴な身分というのではなくて、帝の御寵愛を一身に鍾めていたひとがあつた。はじめから、われこそはと心驕りしていられた方々からは、身のほど知らぬ女よと爪はじきして妬まれるし、そのひとと同じくらい、またそれより一段下つた身分の更衣たちにすれば、まして気のもめることひとかたではない。朝夕の宮仕えにつけても、始終そういう女人们的胸のかき乱し、その度に恨みを負うことの續りつもつたためであつたらうか、だんだん病いがちになつてゆき、何となく心細そうにともすれば里下りの度重なるのを、帝はやむをいまだに不憚なものと思召され、いよいよとしさの増える御様子で、人の批難など一切気かけようともなさらない。まつた後世の語り草にもなりそうな目に立つ御意しみ方なのであつた。

田辺聖子訳 田辺聖子が自分の頭の中で全て組み直して、ひとつづつ流れていきます。空輝から始まり、回想シーンと出てきます

帝にはあまたの女御やお姫がいられたが、誰にもまして寵愛されたのは桐壺の更衣であつた。夜も昼もお側からお離しにならず、世間は玄宗皇帝と楊貴妃の例まで引き合いに出して噂するほどであつた。まして、他の後宮の女人们的嫉妬やそれみはいうまでもない。心やさしい桐壺の更衣は帝のご愛情だけを頼りに生きていたが、物思ひがこうして病いがちになり、ついにはかなく、みまかつてしまつた。

又の味わいは薄いですか？

★英訳では...

ウェイリー-訳

At the Court of an Emperor (he lived it matters not when) there was among the many gentlewomen of the Wardrobe and Chamber one, who though she was not of very high rank was favoured far beyond all the rest.

(ある天皇の宮中に[その天皇の生きた時代はいつであるかは問題でない] 大勢の女御や更衣がいた中に、ひとり、高い位の者ではなかったが、ほかの誰よりも寵愛を受けている者がいた)

... so that the great ladies of the Palace, each of whom had secretly hoped that she herself would be chosen, looked with scorn and hatred upon the upstart who had dispelled their dreams.

(そこで、宮中の偉い貴婦人たちは、ひとりのこらず自分こそ選ばれるべきだと心ひそかに思っていたので、この夢を吹き飛ばしてしまつた成り上がり者をさげすみと憎しみの眼で眺めた)

サイテンステッカー氏は「端康成なんかも訳しています。英語の訳家もかねて日本文学を讀んでみては？」

Still less were her former companions, the minor ladies of the Wardrobe, content to see her raised so far above them.

(彼女が自分たちよりも高い位に昇格したのを見た元の同僚である位の低い更衣たちはそれよりもなお不満だった)

サイテンステッカー訳 わかりやすい！

In a certain reign there was a lady not of the first rank whom the emperor loved more than any of the others.

(ある御代に、最高位ではないが、他の誰よりも天皇が愛していた貴婦人がいた)

The grand ladies with high ambitions thought her a presumptions upstart, ...

(野心の高い高位の貴婦人たちは彼女を図々しい成り上がり者と考え、)

and lesser ladies were still more resentful.

(そして、もっと位の低い貴婦人たちは、もっと腹を立てた)



【班での資料鑑賞、プリント空欄補充】



【仏像の写真を顔に合わせる生徒】

イ 記述課題（1 時間 ※図書館で実施）

（ア） 下書きとペアワーク、記述課題作成（20 分+5 分+15 分）

各自がひとつの作品を選び、「なぜ、どのように誕生したか」をテーマに記述課題に取り組む。インプットした既習内容の知識を整理し、その時代とその作品のつながりについて自分の頭で考える機会を設けるのである。毎回のテーマに統一性は持たせず、各自がその時代の文化の中で取り上げたい作品を選んで書くようにし、生徒が主体的に選ぶことで興味を持って活動に取り組めるようにする。選んだ作品の「いつ・どこで・誰が・何を(4W)」を説明できるようにし、「なぜ・どのように(1W1H)」誕生したか、政治や経済、外交などの既習内容を活用して文章にまとめるようにする(図 3)。レポート用紙には「4W」の箇条書きと、「この作品と政治・経済・外交・社会とのつながり」について書き出す下書き部分を設け(これらの視点のうち、1 つ以上書くよう指示)、それらを書き出した後、隣の生徒に説明するペアワークを行う。知識をアウトプットしてみることで、正しく読めているか、人物名と作品名を取り違えていないか、改めて確認することができる。その後、「1W1H」について考察し、それらをふまえて 150 字程度の文章を完成させる。

【図 3：生徒の記述課題の例】

文化史学習 記述レポート
 [国風] 文化の[平等院鳳凰堂]]はなぜ、どのように誕生したか？

☆自分で選んだものについて 5W1H で説明できるように(英語で説明できたらスバシイ！)

When いつ？ (3) 平安時代、1052年(永治元年)	Where どこで？ 宇治 (京都)
Who 誰が(作者名など)？ 藤原 頼通 (関白)	What 何を(作品名など)？ 平等院鳳凰堂

1H・1Wを考えるために、政治・経済・外交・社会とのつながりを書き出してみましょう
 (4つの視点の内、最低限1つ)

- この作品の[社会]とのつながりは…
疫病の流行、地方での暴乱、火事や地震などが起ったこの時代には宋法思想が広まり、来世で極楽浄土に行くことを期待する浄土教の流行につながった。その時代の代表建築物である。
- この作品の[]とのつながりは…

↑ここまで書き出せたらペアワーク

How どのように？
 (誕生の背景、手法など)
 関白、藤原頼通が、宇治の別荘を、平等院として改めて建立した。→
 (中央に位置する中堂から左右に広がる翼廊が、鳳凰が「ばさ」を広げた形に似ていたために)

Why なぜ？
 (社会的な背景、政治との関わりなど)
 ・社会不安による浄土教の流行。
 ・政治を行う関白(頼通)が建立した。
 → 当時の最高権力者が建立していることから、浄土教と政治、社会の深い関わりが見てとれる。

3年

平安時代、都での疫病の流行、火
 事や地震がもとで社会不安が広
 り、それにより世界が乱れるとい
 う末法思想の考えが一般的になる
 死後の世界への憧れから浄土教が
 流行し、その時に関白藤原頼通が
 宇治の別荘を平等院として改めて
 建立した。中央に位置する中堂か
 ら左右に広がる翼廊が、鳳凰がつ
 ばさを広げた形に似ていたため
 この名が付いた。平安貴族の美の
 結晶といわれ、現世まで守り継が
 れている。

参考文献：著者名、『著書名』、出版社、出版年を必ず明記！

資料集、日本史写真集 山川出版社



【下書き途中にペアワーク】



【完成後、グループでレポートの読み合い】

(イ) 記述課題の読み合いと優秀作品の選出 (10 分)

完成した記述課題を班で読み合う。文学、絵画、芸能、彫刻などの分野に教室を大きく区切り生徒を移動させ、同じような作品を選んだ 4 人で班を作る。お互いの文章を読み合い、4 人の中で「なぜ・どのように」の考察が特に優れているものを 1 点選び出す。その際、作品の特徴とその時代とのつながりについて、既習内容を活用して書けているものを選ぶよう、判断基準を伝える。

ウ 優秀作品の発表 (次の授業の冒頭)

優秀作品 10 点をプリントにまとめ、次回の授業で配布する。文化と時代背景とのつながりを述べている部分に注目させ、次回以降の考察の参考になるようにする。クラス全体の優秀作品を読むことで、それぞれの作品の特色と時代背景を復習することができる。

(3) 資料 6 点と英文紹介の例

飛鳥文化	・飛鳥寺のパフレット (アルカイックスマイルとウルトラマンの話) ・法隆寺のパフレット, 入場券 (仏像を見る際の注意の英文説明) ・法隆寺金堂釈迦三尊像 顔部分の実物大資料 (お面のようにして顔に合わせる子も) ・広隆寺半跏思惟像 顔部分の実物大資料 (指のしぐさやポーズを真似る子も) ・中宮寺天寿国繡帳のパネル資料● ・仏像の伝播を示した世界地図(ガンダーラ美術からシルクロード終着点の日本へ) Japan' s official envoy to Sui (遣隋使), the Seventeen-article Constitution(十七条憲法)
白鳳文化	・興福寺仏頭 展示会のパフレット, 左右からの写真 ・薬師寺東塔 内側の写真資料 ・高松塚古墳壁画, キトラ古墳壁画 調査に関する新聞記事 ・井上靖『額田女王』新潮文庫(フィクションではあるが歌の背景を想像しやすくなる。天智・天武の場面や歌の場面に付箋) ・薬師寺金堂薬師三尊像 台座の写真資料 ・法隆寺金堂壁画 写真資料(アジャンター・敦煌の壁画をおまけ資料として追加)
天平文化	・古事記, 日本書紀の冒頭部※(ギリシャ神話や創世記との相似・相違点など) ・『万葉集』* (好きな歌に付箋) ・十二神将像の写真資料 (ポーズに注目, 人気投票など) ・『別冊太陽 日本のこころ 143 正倉院の世界』平凡社 2006(ラピスラズリや螺鈿の豪華さに注目) ・『芸術新潮 阿修羅のまなざし 2009 年 3 月号』新潮社 2009 (阿修羅像の身長・体重, 梱包・運送方法など) ・井上靖『天平の薨』新潮文庫(フィクションではあるが遣唐使船の様子がわかる。鑑真の場面に付箋) 『A Record of Ancient Matters(古事記)』, 『The Chronicles of Japan(日本書紀)』, 『A Collection of Ten Thousand Leaves(万葉集)』
弘仁・貞観文化	・『日本霊異記』※の目次(狐と結婚する話, 石を産む話, 草を食べて空を飛ぶ話など) ・曼荼羅のパネル写真● ・不動明王像(赤・青・黄の三色) ・薬師如来像の腹部の写真資料(翻波式に注目) ・『季刊 墨スペシャル第 12 号 書を学ぶ人のための図説 日本書道史』芸術新聞社 1992 (資料集に出てくる「資料」としてではなく「書」として見てもらう) ・増田秀光編『Books Esoterica 第 1 号 密教の本』学習研究社 1992(マントラや印契など) the esoteric Buddhism(密教), the syncretic fusion of Shinto & Buddhism(神仏習合)

* 角川ソフィア文庫のビギナーズ・クラシックス日本の古典 ● 日本史写真集 山川出版社

※ 岩波書店の新日本古典文学大系

◎ 講談社の少年少女古典文学館

国 風 文 化	・『古今和歌集』＊（目次に注目，春秋が多い） ・平等院鳳凰堂内陣のパネル資料● ・源氏物語（原文は古典の授業で学習中なので，今回は与謝野晶子，谷崎潤一郎，瀬戸内寂聴などの現代語訳を紹介：p4, 5の図1, 2） ・中村保男『名訳と誤訳』講談社1989（源氏物語冒頭部の2つの英訳。海外から見た日本文化という視点を紹介：p5の図2） ・『季刊 墨スペシャル第12号 書を学ぶ人のための図説 日本書道史』芸術新聞社1992（三蹟の書風に注目，三筆との違いなど） ・『別冊太陽日本のこころ 60 源氏物語の色』平凡社1988（平安時代の着物の色，染料など） the pure land（浄土），『The Pillow Book（枕草子）』，『A Collection of Old & New Japanese Poetry（古今和歌集）』
院 政 期 の 文 化	・中尊寺金色堂の入場券，地図，写真（中は撮影禁止だった話，芭蕉の句の紹介など） ・『梁塵秘抄』＊（有名な歌，変わった歌に付箋） ・『大鏡』＊（流れがわかるので目次にも注目） ・田楽，猿楽の説明資料（笑いすぎて顎が外れた人もいたらしい，など） ・厳島神社の写真（広島旅行の話など） ・鳥獣戯画のパネル資料●（画風や風刺に注目）
鎌 倉 文 化	・『新古今和歌集』＊（好きな歌に付箋） ・『蒙古襲来絵巻』のパネル資料● ・『山家集』＊（清盛と同年生まれの佐藤義清の生涯について） ・『平家物語』＊（有名な冒頭部，入水の場面などに付箋） ・方丈記，徒然草，愚管抄の冒頭部※（仮名書きのもの） ・東大寺南大門金剛力士像のパネル資料●（筋肉，血管に注目） the impermanence of all things（諸行無常），『Essays in Idleness（徒然草）』
室 町 文 化	・『太平記』＊（ハイライトに付箋） ・水墨画『瓢鮎図』のパネル資料●（公案の答えにも注目） ・松田存『伝統芸能シリーズ5 能・狂言』ぎょうせい1990（外国人の能の感想など。「死ぬほど感動するか死ぬほど退屈するか」） ・金閣寺と銀閣寺の写真，お札（英文の解説や英文・中文・ハングル文字のおみくじの写真も） ・『風姿花伝』※（16, 17歳の時の心構えについての箇所など：p9の図4） ・五山文学※（漢詩を自由に訳す楽しみを紹介。「酒と茶の会話」など：p9の図4） dry garden style（枯山水），simple taste（わび），subdued refinement（さび）

特に室町文化の2点はぜひ生徒に読んで味わってほしいと感じた資料である（次ページの図4）。生徒にとってなじみがなさそうな能も，『風姿花伝』のこの箇所は納得しながら読めそうである。五山文学についても，「五山文学，絶海中津，義堂周信，中巖円月」という語句のみを暗記する場合と，この詩を面白がって読んだ後とでは定着度が変わってくるだろう。じっくり読みこむ生徒や，笑いながら感想を伝え合う生徒もいた。

今年度の授業では古代・中世を中心に行ったが，近世以降でも以下のような例が考えられる。

化 政 文 化	・『太陽浮世絵シリーズ1～4』歌麿・写楽・北斎・広重（ゴッホの絵をおまけ資料として追加）平凡社1975 ・『南総里見八犬伝』◎（里見公園の話） ・『東海道中膝栗毛』◎（面白い会話に付箋） 『The Biographies of 8 Dogs（南総里見八犬伝）』，『The 36 Views of Mt. Fuji（富嶽三十六景）』
近 代 文 化	・『野菊の墓』新潮文庫（矢切の渡しの話，ジッド『狭き門』との相似・相違点など） ・『みだれ髪』新潮文庫（好きな歌に付箋） ・東京駅とアムステルダム駅の写真 ・『原色日本の美術第26巻近代の日本画』小学館1972（題材や技法の話） ・『講談社版日本近代絵画全集』講談社1963（佐倉出身の浅井忠の話） ・岩崎邸の入場券 『Tangled Hair（みだれ髪）』，『The Dancing Girl（舞姫）』

☆世阿弥 風姿花伝より

十七、八より 年齢による稽古の仕方

この比は、また、餘りの大事にて、稽古多からず。先づ、聲變りぬれば、第一の花失せたり。體も腰高になれば、かかり失せて、過ぎし比の、聲も盛りに、花やかに、やすかりし時分の移りに、手立はたと變りぬれば、氣を失ふ。結局、見物衆もをかしげなる氣色見えぬれば、恥かしさと申し、かれこれ、ここにて退屈するなり。

この比の稽古には、ただ、指をさして人に笑はるるとも、それをば願みず、内にては、聲の届かん調子にて、背・喉の聲を便ひ、心中には、願力を起して、一期の堺ごととなりと、生涯にかけて能を捨てぬより外は、稽古あるべからず。ここに捨てれば、そのまゝ能は止まるべし。――

鬼のHow鬼
大人になっても生涯捨てないものを持つべし
今捨てたらそのまゝ止まってしまう!!

これ、殊さら、大和の物なり。一大事なり。およそ、怨靈・憑物などの鬼は、面白き便りあればやすし。あひしらひを目かけて、細かに足手を使ひて、物頭を本にして働けば、面白き便りあり。誠の冥途の鬼、よく學べば恐しき間、面白き所所になし。誠は、餘りの大事の態なれば、これを面白くする者稀なるか。先づ、本意は、強く、恐しかるべし。強きと恐しきは、面白き(心)には變れり。
鬼のHow鬼
大人になっても生涯捨てないものを持つべし
今捨てたらそのまゝ止まってしまう!!

☆五山文学集より

200 茶、酒に問ふ 中 敬 四 月

徳譽君は栄す 伯倫の頌、

嘉声我れは忝うす 玉川の歌。

一般の風味は同じく賞するに堪ふるも、
醒酔の功殊なるは事若何。

茶問酒

徳譽君榮伯倫頌、嘉声我忝玉川歌。一般風味
同堪賞、醒酔功殊事若何。

201 酒、茶に答ふ

君が趙州の禅に参得するに任すも、

未だ会せず 曹山の孝満ちて顛するを。

寐寤は恒に同じく生死は一なり、

醒醒とは何ぞ問頭の偏れるを致すや。

酒答茶

任君参得趙州禅、未会曹山孝満顛。寐寤恒同
生死一、醒醒何致問頭偏。

お酒とち茶がしやべつてゐるといふ話。シールなわい。中国の元ネタでは茶と酒が論争して最後に水が出てきて仲裁するそうです。

私の方は盧同(玉川)の名作の茶の歌のお蔭で高い名声を得ている。

二味わいという点では、われわれはお互いの人から賞味される資格を共有するが。

二一方は頭をすつきりさせ、一方は心身を酔わせるという違った機能があるのは、どういうわけか。どちらがまさっているかという含み。

趙州禅師の所に二人の新参の僧が来た。師が問うた、「ここに来たことはあるかな。」

「ありません。師(喫茶去)茶を飲んでこい。」もう一人に訊ねた、「ここに来たことはあるかな。」

「あります。師(喫茶去)茶を飲んでこい。」なお「喫茶去」を、従来お茶をどうぞとか、「まあ一杯お上がり」と解するのは誤りで、原義は「茶を飲みに行け」ということ。

「茶を飲んでから出直して来い」という意。このころ禅院には茶堂(または茶寮)という別棟があった。

5 結果と考察

(1) ある生徒の記述課題の変化

ア 飛鳥文化 (2014年5月実施)

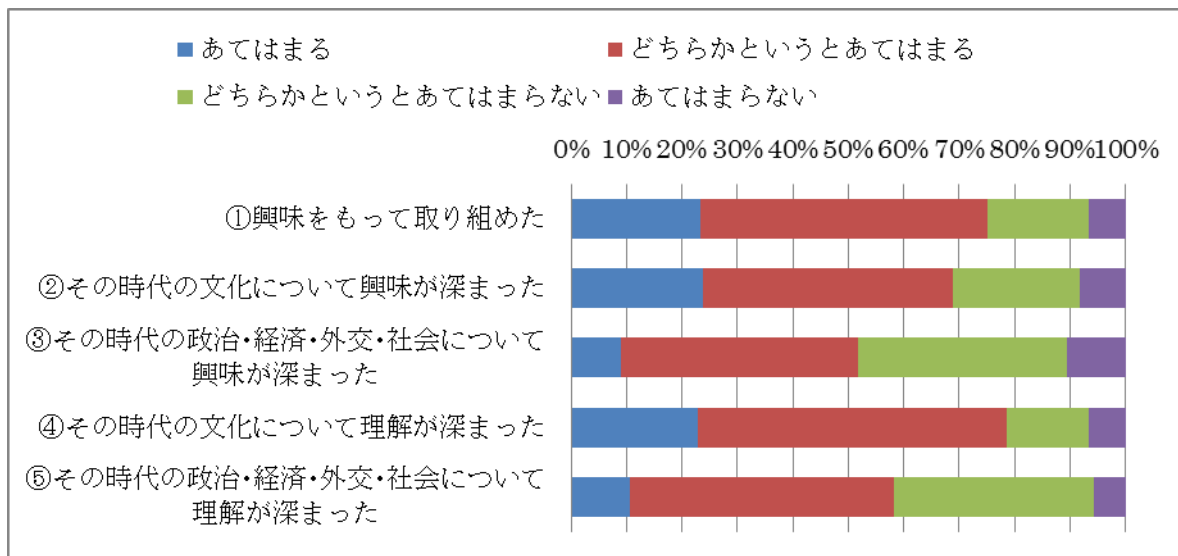
飛鳥文化の代表的な文化作品の1つに、「天寿国繡帳」というものがある。当時厩戸王の死を悼み、妃の橘大郎女が推古天皇に制作を願い出てつくられた。渡来人が描いた下絵を元に采女らが刺繍したとされるこの作品には、仏教を厚く信仰した厩戸王(聖徳太子)の言葉が記されている。「仏の教えのみが真実である」。ここからも、日本最初の仏教文化の開花を象徴している作品であることがうかがえる。

イ 天平文化 (2014年6月実施)

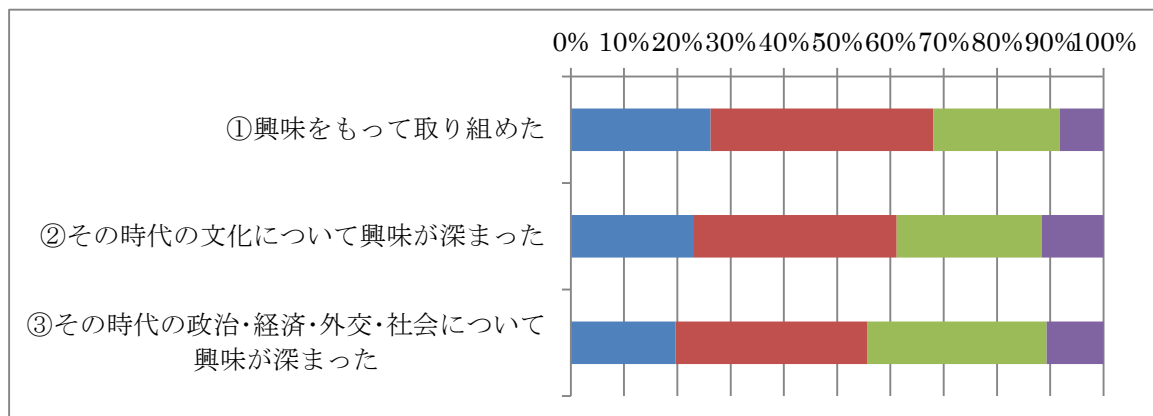
唐招提寺鑑真像は、天平文化を象徴する日本初の肖像彫刻である。モデルになった鑑真は755年東大寺に戒壇堂を設立し、聖武天皇・光明皇后も受戒している。鑑真来日の背景には、仏教伝来の際の不完全な戒律による社会の混乱があり、そのため正式な戒律を導入することが必要とされた。仏像は乾漆像に分類され、表面に漆が塗り固められる製法でつくられている。当時、仏教が政治や文化の中心であったことが読みとれるだろう。

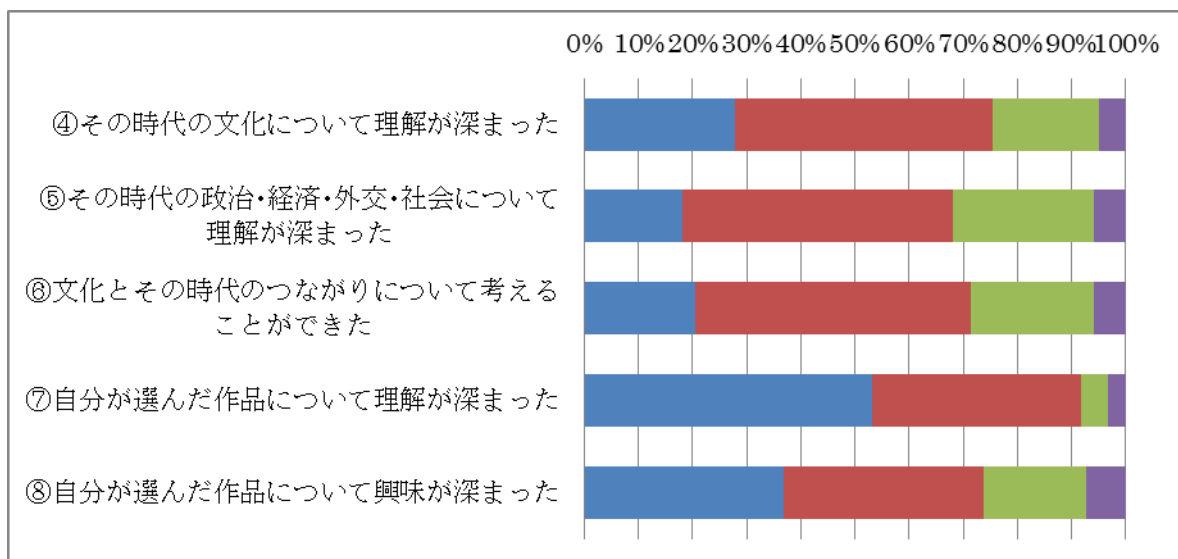
(2) 生徒の意識調査の結果 2014年9月実施 3年生文系 日本史選択者(4講座122名)

ア グループでの資料鑑賞について

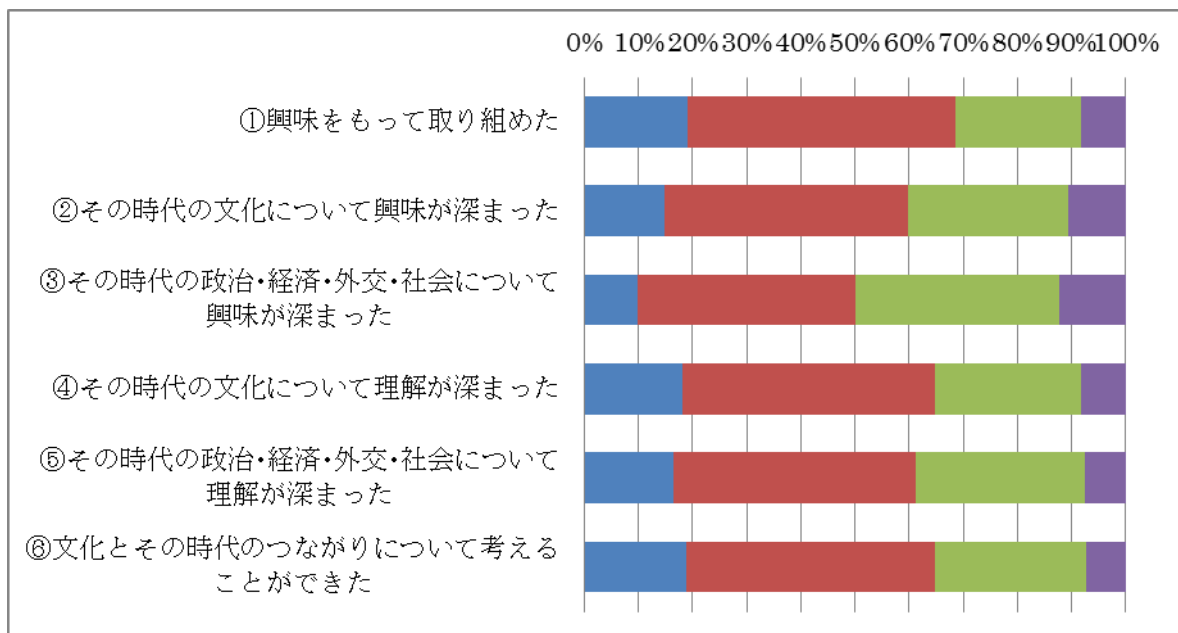


イ 記述課題の作成について

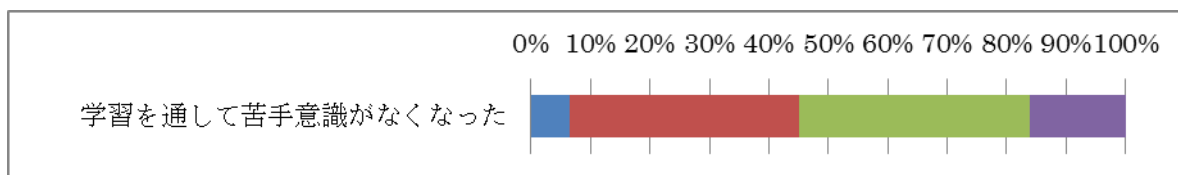




ウ グループでの読み合いについて



エ 文化史学習について（文化史学習に対して苦手意識があった 94 名に質問）



オ 生徒の感想（自由記述）

- (ア) 資料鑑賞 インパクトがあり頭に入りやすかった／写真を見て話し合ったりするので印象に残った／資料回しで興味が湧いてきて授業を楽しく受けることができた／一人より皆でやった方が苦手と感じなくなる／もっとじっくり見たかった。特に本はじっくり読みたかった／授業に対する興味が増した
- (イ) 記述課題 自分で書くことでより覚えやすくなり、理解も深まった／なぜこの文化が発展したのかわかると楽しい／文化は社会とつながっていることを実感できた／気になったものを調べる機会が普段はないので楽しい／覚えるだけでなく、その文化について調べることで理解が深まったと思う／名前は知っているが内容に関しては知らないものが多いので、それを知るいい機会だった／原稿用紙に文章を書くことの大切さを痛感した／今までの内容が理解できていないと書けないので、取り組むことで頭の整理ができた

(ウ)読み合い 人が書いたものを読むことで自分にはない見方が発見できて更に勉強になった／自分が調べたものはもちろん、他の人が発表したものは覚えやすくなった／書くのは苦手だったが読むのは楽しかった

(エ)反対意見(8名) 資料鑑賞はとても良いと思うが、記述課題より文化史の問題を解いた方が暗記できる／先生が文化と経済のつながりを話してくれた方が効率が良い／資料集を見ればいい

(3) 考察

例としてあげた飛鳥文化の記述では、その時代における渡来人との関係や厩戸王の仏教信仰など、作品と政治・社会とのつながりを考察している。天平文化の記述では、授業中に説明した戒律について更に詳しく調べ、その知識を活かして文章にまとめている。記述課題に取り組むことで、既習内容の知識を深め、その作品とのつながりを見つけ出している例である。

意識調査の結果から、資料鑑賞やペア・グループワークを取り入れることで、多くの生徒が興味を持って文化史学習に取り組めたことがわかる((2)アイウの質問①)。授業で学んだものや自分で調べたものの理解が深まることは当然と言えるが(アイウの④、イの⑦)、半数以上の生徒が文化史学習を通してその時代の政治・経済・外交・社会についての理解が深まったと答えている(アイウの⑤)。作品とその時代とのつながりを考え、文章にまとめる課題に取り組むことで、文化史学習の内容理解を深めるだけでなく、既習内容の理解をより深めることができたと言える。図書館で授業を行うことで、教科書ではあまり取り上げられないような作品(伎楽面など)を選び、調べる生徒もいた。ペアワークや記述課題の読み合いの際に本を示しながら説明する生徒が多く、調べたものや知ったことを相手に伝えたいと思っている様子が見受けられた。また、文化史学習に対して苦手意識があると答えていた生徒から「文化史の授業が楽しかった」との感想を得た。講義形式や問題演習を求める生徒も何人かいたが、多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいた。

6 まとめ

今回の実践で、文化史学習に対する苦手意識を払拭できた生徒は半数に満たなかったが、生徒の感想の中に、資料に触れ、調べることで「苦手意識はまだあるがおもしろい」と少し思うようになった、「興味がなく苦手だったが興味がわいた」というものがあつた。デジタル復元師・彩色家の小林泰三氏は、「屏風もふすま絵も元々は身近な『道具』。本来の姿を取り戻したレプリカ作品に触って『体感』することで、全く違った世界が見えてくる」「色が宿れば時代の空気を感じることもできる」と語る(注)。絵巻物を当時の貴族が眺めたように和ロウソクの炎のみを頼りに右から左へと広げていくことで、その時代の人々と同じ気持ちを味わうことができる。技術が進めば、実際に桃山小袖や元禄小袖を着ることや、刷りたてのような浮世絵を見ることもできるだろう。

地理歴史・公民科を教えていて由々しきことと思うのは、生徒が「ルソー、社会契約論」というふうに教科書の重要語句を暗記するのみで、社会契約論とはどのようなものであり、どのような影響を他に与えたのか考えようとしていないことである。小説や音楽、美術作品に触れることなく、題名や古典主義、ロマン主義といった語句を覚えることにどのような意味があるのだろうか。今後も文化史学習を授業の一つの柱とし、その時代の文化に触れることでその時代の人々や出来事に対する生徒の興味・関心を高め、学ぶ楽しさや知る楽しさを生徒に伝えていきたい。

最後に、2年間にわたりご指導いただいた指導課ならびに教科指導員の先生方、教科研究員の先生方、そして研究にあたり貴重な助言をくださった全ての先生方に心から感謝を申し上げます。

(注)朝日新聞 be, 2014年5月24日「フロントランナー よみがえる古の色彩」